

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 4 年 1 月 4 日 報告者：佐藤 文明

| | | | |
|----------|---|------|-----------|
| 行事種別 | 講演会 | 行事番号 | 210011702 |
| 開催日 | 令和 3 年 12 月 4 日 (土) ~ 令和 3 年 12 月 17 日 (金) | | |
| 時間 | 開始 | — | 終了 |
| 場所 | Web 配信 (オンデマンド配信) | | |
| テーマ | 臨床化学検査における試薬検討の基礎知識 | | |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科 20 点 | | |
| 司会 | — | | |
| 講師 | 講演 1. 「試薬検討の基礎知識 (前編)」 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 吉川 実季 講演 2. 「試薬検討の基礎知識 (後編)」 株式会社グッドライフデザイン 小栗 美里 講演 3. 「自動分析装置の基礎と測定原理について」 日本電子株式会社 ME 技術サポートセンター 応用研究グループ 森田 紗世 | | |
| 内容 | <p>今回の講演会では、AICCLS より手引書発刊を受け、「臨床化学検査における試薬検討の基礎知識」をテーマに、講演 1 では、「試薬検討の基礎知識 (前編)」と題して、正確さ、精度、検出限界、定量限界、直線性、範囲についてまとめて講演した。また、妥当性確認と検証の違いにも触れ、再確認いただく内容となった。講演 2 では、「試薬検討の基礎知識 (後編)」として、相関性、共存物質の影響、検体保存安定性、コンタミネーション試験、患者試料の取り扱いについてまとめて講演した。講演 3 では、「自動分析装置の基礎と測定原理について」と題し、メーカーより講演いただき、臨床化学分野における自動化の変遷から、自動分析装置の基礎として測定機序、更には応用として反応過程の見方や装置パラメータを踏まえ測定結果を読み解く方法など幅広い知識を習得できる内容であった。昨今、分析装置の自動化が進み検査精度が向上する半面、機器や試薬の性能・原理を正しく理解せず、誤った解釈・取り扱いにより、予期せぬ過誤を発生させる可能性がある。本講演では基礎的検討の内容について改めて学ぶことで、機器・試薬性能についての理解を深め、その性能を適正に評価できる技師育成に寄与できるものと考えられる。今後も最新の知見を配信することで、各施設・会員の一助となれば幸いである。</p> | | |
| 参加者 | 総数：132 名 (愛臨技会員 90 名、県外会員 39 名、賛助会員他 3 名) | | |
| 共催、後援など | なし | | |